

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年)
～地元報道より～

3月の出来事

南三陸町

◆南三陸町は高野会館を震災遺構として保存しない考えを、保存プロジェクトメンバーに伝えた。保存に要する国の財政支援を、旧防災庁舎に充てるのが主な理由。

◆4日南三陸町入谷で、老朽化に伴い移転新築した南三陸署入谷駐在所の開所式が行われた。建設されたのは、旧駐在所から約300m東の入谷中心部。

◆気仙沼・南三陸地域農業経営セミナーが1日気仙沼合同庁舎で開かれた。農家の所得向上や農村の活性化に向けて期待される。女性農業者の活躍を後押ししようと開催。

◆3日南三陸町志津川の「さんさん商店街」が本設オープン。1周年を迎え、記念イベントや餅まきが行なわれた。記念特価での販売や買い物客に記念品を贈呈するなどのほかガラポン抽選会もあった。

震災の風化防止と行方不明の手がかりを探すため、南三陸町を中心にボランティア活動を展開している震災復興支援協会「つながり」が、11日午前9時から東日本大震災の行方不明の捜索と物故者追善法要を行った。

◆南三陸町の「ハマレ歌津」を会場とした、被災地応援ライブが、10日開かれる。11日は東日本大震災慰霊献花式が南側駐車場で営まれる。

◆南三陸病院に10日、韓国の子供たちが描いた応援横断幕が届いた。支援活動を続けている静岡県富士宮市のNPO法人ヴィレッジネーションが橋渡し役となったもの。

◆南三陸町入谷桜沢地内の町道で10日午後4時20分ごろ、原付バイクと中型トラックが正面衝突する事故があった。原付バイクを運転していた入谷桜沢の男性(68)が首の骨を折るなどの重傷を負った。

東日本大震災から11日で7年。南三陸町の追悼式は、11日午後2時30分から町総合体育館ベイサイドアリーナで営まれた。町長をはじめ、来賓や遺族など約千人が参列した。南三陸町では、震災で620人が死亡、211人が行方不明になっている。人口は震災直前に比べると、4459人(25.2%)減少し、歯止めがかかっていない。

南三陸町戸倉出身の女流画家外立とし江さんが、南三陸病院を訪れ寄付金を佐藤町長に手渡した。外立さんは東日本大震災の津波で、弟の佐藤栄(元町議)さんをはじめ親族7人を亡くしている。

◆県は13日、小泉・伊里前湾産ホタテガイのまひ性貝毒の要観察時期(イエローライン)になったと発表。関係支所などに出荷の自粛を要請した。

南三陸町教育委員会は、2018年度の全小中学校の児童・生徒見込み数をまとめた。新入学児童は昨年と比べて13人少ない。中学校の入学生徒数は2校で101人と、減少傾向に歯止めがかからない状況が続いている。

◆みやぎ青年婚活サポートセンターによる結婚相談会が、21日南三陸町志津川「ベイサイドアリーナ」で開かれた。センターでは県内の各自治体の協力で、独身男女の結婚相談や出会いの場の提供などを行なっている。

昔使われた火防線を再整備したトレイルロードを歩く、「南三陸火防線ウォーキング」が24日入谷地区で開かれる。南三陸町の自然の豊かさを再確認してもらうとともに、火防線整備による「南三陸町イヌワシ火防線プロジェクト」をPRすることが狙い。

◆南三陸町は4月1日から、運転免許証を自主返納した町内の65歳以上の人を対象に、町が運

行している南三陸乗合バスの無料バスを交付する。交付日から1年間無料で乗合バスに乗ることができる。

◆県道弘川町向線の新ルートが25日開通する。新ルートは全町800mで、道路幅は10m(うち車道6m)。総事業費は約10億円。

南三陸消防署は、本吉タクシー志津川営業所でスクールバスの車両火災防炎訓練を行った。児童を乗せて走行中のバスのエンジンルームから出火したことを想定しての訓練。消防署員や営業所の社員が参加した。

◆南三陸消防署から20人が参加し、浮きを使った非常投浮を考案したサンマ船漁労長の千葉茂喜さん(69・細浦)の指導で、有効性や投げ入れ方などを学んだ。

南三陸町志津川市街地を走る国道45号の新ルートが、29日午後3時に開通する。開通するのは、市街地西部の水尻橋から「さんさん商店街」南側交差点までの約800m。市街地をう回していた現在の国道45号に比べ、約1k短縮される。海拔12mに嵩上げされた道路は防潮堤の役割もあり、住民の安全性と復興の加速化に期待されている。

◆26日、南三陸町志津川細浦漁港で養殖銀ザケの水揚げが始まった。

南三陸町戸倉地区波伝谷に伝わる伝統行事、波伝谷春祈禱(町指定無形民俗文化財)が地区内で行なわれた。戸倉波伝谷契約講によって、300年以上前から行なわれている伝統行事。

◆南三陸町志津川高校情報ビジネス科が行なっている、まちおこしプロジェクト「モアイ化計画」が2018年度の高校の現代社会用資料集に掲載された。同年代の高校生が描く地域で実施している取り組みを、知ってもらうための副読本。

◆29日南三陸町学校給食センターの新築落成式が、移転先の志津川中央団地内で行なわれた。4月1日から共用を開始する。

平成30年(2018年)
～地元報道より～

2月の出来事

南三陸町

◆志津川保育所の落成式が2月1日に行なわれた。新しい保育所は志津川市街地中央団地内に開所した。中村所長の元で69人の児童が保育を始める。建築費は3億4200万円で、町の合併特例債と寄付金を充てた。

◆南三陸町学校給食センターが完成し、4月1日から共用を開始する。南三陸町内の小学校5校と中学校2校の7校の給食を再開する。志津川地区中央団地入口に建設された。総工費は、面積2141㎡で工事費は7億円で復興交付金を活用した。

◆宮城県消防職員発表会で、南三陸消防署の消防士遠藤崇史さん(29)が最優秀を受賞した。「消防用設備を無駄にしない」をテーマに発表し、「指導アドバイザー育成」を主張した。

◆歌津IC供用1ヵ月の利用車状況が、仙台河川事務所から報告された。歌津ICから南三陸海岸ICの1日あたりの通行量は7千台で、南三陸町への来訪者は南北から増加している。それに反して国道45号線などの通行量は減少している。三滝堂から歌津ICまでの交通量は、2～6割も増える効果となった。

6日南三陸町臨時議会が開催され、議員の期末手当が6月は1.55ヵ月分、12月は1.70ヵ月分が支給されている。人事院勧告に基づき今年から各月0.025ヵ月分の増額が提案されたが、全会一致で議案が否定された。その他の人事院勧告は、一般職と特別職の期末手当増額は議案が可決された。

◆県は養殖ホヤの販路拡大へ、「韓国がだめなら米国へ」とカリフォルニア州のスーパーへの売り込みに力を、10日から始め3月には輸出も予

定している。

◆東日本大震災の月命日の前の9日、不明者の捜索を南三陸警察署が戸倉長清水でおこなった。10日現在、南三陸町では211人が不明者となっている。

南三陸町の志津川魚市場が9日、大日本水産会から「優良衛生品質管理市場」の認定を受けた。県内初の認定で、今後は漁船誘致、魚価高を町と漁民は期待している。

◆台湾東部地震が6日に発生した。これまでの感謝と御礼の思いを込め、町内6カ所で募金箱を設置した。南三陸町では病院建設の56億円のうち22億円を台湾からの支援をうけ建設した。2016年の台南市の地震へは、600万円を送金した。

◆南三陸町で11日、「県子ども育成フォーラム」が開催され、ジュニアリーダーや子供会関係者50人が参加した。

◆南三陸町議会が町民と懇談会。15人の議員が2班に別れ4会場で、町民との懇談会を開き、志津川地区の役場には4人の町民が集まった。

南三陸ホテル観洋が、業界紙・旅行新聞の今年の「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」の全国21位に選ばれた。「感謝をテーマ」としての接客が評価された。

◆養殖ワカメの第2回入札会があり、塩蔵ワカメが10キロ1万円超えと、引き続き高値で取引された。

災害対応の最新設備搭載の救急車が南三陸消防歌津出張所に、配備された。車内には傷病者の生体情報などを観察する監視モニターなどを備えた。車両は3200万円で3月から共用を開始する。

◆気仙沼・本吉広域議会で、南三陸消防署の建設費6億3900万円が計上された。場所は志津川地区の中央団地内の町有地に新年度に着工し、

供用は未定。

◆「志高まちづくり議会」が12日に町の議場で開催された。志津川高校の2・3年生が町当局に観光や福祉の活性化への、まちづくりの施策や提言を発表した。

南三陸ホテル観洋の倉橋誠司さん(54)は、通訳案内士でイタリア語での通訳士は、県内4人目となった。英語のW取得で、外国からの観光客を迎えるインバウンド増へ意欲を見せている。

◆南三陸町の「さんさん商店街」「ハマレ歌津」の2つの商店街に、隈研吾さんデザインの看板が設置された。費用は800万円で、町の補助金を活用した。

◆20日志津川の八幡川へのサケの稚魚の初放流を行なった。今年は八幡川・水尻川で906匹のサケ捕獲、今期は800万匹の放流を目指す。

南三陸町では3月に、町有地へ福島原発の汚染牧草をすき込みする。安全確認のうえ、本処分する。20日夜には、戸倉公民館において住民に「すき込み」の方法とスケジュールを示した。国の基準では8千ベクレル以下ながら、町では400ベクレル以下の牧草と、低レベルの戸倉地区南部の山あいすき込む事を説明した。

◆JR東日本は7月ごろに「志津川中央団地駅」を開通予定。

◆歌津伊里前小学校の児童が、台湾地震の募金を呼び掛け、震災支援の恩返しと「7万7千円」の募金を町へ手渡した。

◆南三陸町志津川の南三陸ホテル観洋を会場に「全国語り部シンポジウム」が25日開催され、全国から400人が参加した。震災語り部が防災や減災の役割を担っている事を確認し、「教訓を千年先まで」も語り継ぐ事を誓った。